

## 第2回豊田市総合計画審議会 会議録

【日 時】 令和5年7月24日（月）午後2時00分～4時00分

【場 所】 豊田市役所南51会議室（南庁舎5階）

【出席者】

（委 員）

|        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| 阿垣 剛史  | 豊田市区長会会長                         |
| 浅野 智恵美 | 市民公募                             |
| 稲垣 博貴  | （一社）豊田青年会議所理事長                   |
| 稲垣 令一  | 豊田市高齢者クラブ連合会会長                   |
| 大河原 真吾 | あいち豊田農業協同組合常務理事                  |
| 大澤 正彦  | 日本大学文理学部情報科学科准教授<br>次世代社会研究センター長 |
| 加藤 真二  | （一社）豊田加茂医師会会長                    |
| 加納 実久  | 新とよパークパートナーズ会長 名古屋工業大学研究員        |
| 木村 匡子  | 関西大学社会学部准教授                      |
| 幸村 的美  | （社福）豊田市社会福祉協議会会長                 |
| 佐伯 英恵  | （公財）豊田市国際交流協会理事長                 |
| 澁澤 寿一  | NPO法人共存の森ネットワーク理事長               |
| 永田 祐   | 同志社大学社会学部教授                      |
| 中野 貴博  | 中京大学スポーツ科学部教授                    |
| 野崎 健太郎 | 豊田市PTA連絡協議会副会長                   |
| 畑中 直樹  | 大阪大学大学院工学研究科招聘教員                 |
| 弘中 史子  | 中京大学総合政策学部教授                     |
| 牧野 篤   | 東京大学大学院教育学研究科教授                  |
| 丸井 康弘  | 市民公募                             |
| 湊 裕    | 連合愛知豊田地域協議会事務局長                  |
| 安田 明弘  | 豊田市副市長                           |
| 吉村 一孝  | 豊田商工会議所専務理事                      |

（計22人）

【欠席者】

（委 員）

|       |            |
|-------|------------|
| 大橋 宏  | 豊田信用金庫理事   |
| 鈴木 学  | 豊田市副市長     |
| 松本 幸正 | 名城大学理工学部教授 |

【理事者】

|            |          |       |           |
|------------|----------|-------|-----------|
| 太田 稔彦      | （豊田市長）   |       |           |
| （事務局） 辻 邦恵 | （企画政策部長） | 都築 和夫 | （企画政策副部長） |
| 野依 真人      | （企画課長）   | 花田 潤治 | （都市計画課長）  |

|       |          |       |            |
|-------|----------|-------|------------|
| 丹羽 広和 | (企画課副課長) | 大光 圭二 | (都市計画課副課長) |
| 宮川 恭子 | (企画課担当長) | 今村 広和 | (都市計画課主幹)  |
| 古田 祥久 | (企画課主査)  | 西岡 雄志 | (都市計画課担当長) |
|       |          | 加納 崇壮 | (都市計画課主査)  |

【傍聴人】 3名

【議 題】 1 会長あいさつ

2 新委員等の紹介

3 議題

(1) 計画構成・スケジュール

(2) 第1回総合計画審議会の意見集約

(3) 「(仮称)ミライ構想」

(4) 「(仮称)ミライ実現戦略 2030」の方向性

(5) 市民参画の取組(情報提供)

4 その他

今後のスケジュール

・ 第3回 令和5年11月20日(月) 14:00～

・ 第4回 令和6年 1月22日(月) 15:00～

---

【議 事】

■ 会長あいさつ

○会長

暑い中、ありがとうございます。豊田市は全国で一番暑い、39.1度を記録しました。

前回以降、いろいろな経験をしました。女性役員の会に参加した際、男性社会の中で企業の役員になっている方が、定年退職後、地域に戻れるか自信がなく不安で仕方ないという話がありました。女性活躍と言われますが、そういうことを含めて社会の在り方を変えないといけないのではないかと思います。

また、お寺の会合では、寺の経営をどうしようかという話題がありました。宗教法人という経営体がどういう形で社会の中で生きていくのかが問われていると思いました。

人口構造が変わること、人工知能が発達する中で、働き方や人生の設計の仕方、それぞれの法人・組織・機関の経営の在り方まで変えていけない時代になってしまいました。総合計画の審議の中で、一人一人が取り残されないで、自分自身の選択、人生を全うできるように考えていきたいと思えます。よろしくをお願いします。

■ 新委員等の紹介 自己紹介(大河原委員、佐伯委員、大澤委員)

■ 議題(1) 計画構成・スケジュール

○事務局 資料①に基づいて説明

## ■ 意見交換

(会長)

資料①に基づいて、御説明いただきました。「(仮称)ミライ構想」にめざす姿や都市構造、「(仮称)ミライ実現戦略2030」に取組方針・目標・指標・施策が入っており、毎年見直しを実施し、公表していくということです。計画の構成について、御質問はございますか。

(A 委員)

自分自身がまだ把握できていませんが、今回の総合計画を作るに当たって、国や愛知県でも総合計画が策定されると思っています。それらと今回の豊田市の総合計画の位置関係がわかっていますが、少なからず関係してくると思います。予算の絡みもあると思うので、関係性をわかる範囲で結構ですので説明をお願いします。

(事務局)

国ではデジタル田園都市国家構想を令和4年12月に出しており、愛知県は今年度策定作業を進めています。豊田市も国や県の動向を見ながら、施策については総合計画に反映していきたいと思っています。

スケジュールにも、「(仮称)ミライ実現戦略2030」や施策を考える期間を長くとり、県の策定状況も踏まえながら、本市の総合計画を固めていきたいと思っています。

(会長)

国には全国総合開発計画がありましたが、地方分権の流れで、一括で開発計画を作らなくなって久しいです。説明のあったデジタル田園都市国家構想は個別構想になります。基礎自治体の総合計画は、豊田市独自の総合計画として立てていくのが基本で、各省庁の個別計画をその時々で反映していくものと考えます。

(B 委員)

スケジュールでは、「(仮称)ミライ構想」と「(仮称)ミライ実現戦略2030」がありますが、「(仮称)ミライ構想」は市民から十分意見を聞くことのできるスケジュールですが、「(仮称)ミライ実現戦略2030」への市民の声はどのように反映していくのでしょうか。

(事務局)

今までは、ある程度内部で作り込んだ内容を市民に対して説明し、御意見をいただくというやり取りにより市民意見を反映していましたが、内容を固める前に市民の皆さんから御意見や提案をいただきたいと思っています。そのため、夏以降のタイミングで市民参画の機会を設定しています。

最終的にパブリックコメントやEモニターで意見はいただきますが、途中段階でも市民の方から意見をいただこうと思っています。

(C 委員)

関係団体との意見交換は、青年会議所とも行う予定がありますか。

(事務局)

資料⑤、市民参画の取組を御覧ください。個別テーマに対する意見聴取という中で、いろいろな団体、子どもや若者を始めとした団体、経済団体、外国人の方など多種多様な団体の御意見を聞きたいと思っており、要望があれば青年会議所とも意見交換をしたいと思ってい

ます。

(C 委員)

青年会議所は12月に年度が替わり、8月、9月からは今年と来年が重複するため、早めに御案内いただけるとありがたいと思います。

(会長)

早めに御連絡いただきながら、多様な意見をいただけると良いと思います。

(D 委員)

地域会議に諮問、答申とありますが、地域会議で意見が出るとは考えられず、区長会などでも行って欲しいという思いがあります。工夫していかないと地域の声が聞けないのではないかと思います。

(会長)

地域会議では意見を聞けないのではないかという御意見ですが、地域会議にあまり詳しくないので、御説明をお願いします。

(事務局)

28の地域会議があり、市から諮問させていただいて、12月、1月に答申をいただきます。中学校区単位の地域会議だけでは、十分な御意見がいただけないのではという御意見であったと思います。地域会議と区長会は参加者の重複もあることから、個別に御希望があれば、地域振興部と調整・検討させていただきます。

(会長)

地域会議に関わる方はどういう方なのか、委員の方は御理解されていないかと思います。

(事務局)

各地域から公募も含めて選出しています。

(D 委員)

全体のことを考えて意見を言うのは大変なので、区長会も入れて検討していただいた方が良いでしょう。

(会長)

地域協議会は総務省が提唱して、自治会とは別に組織されており、自治会とは別の形で意見をいただいています。区長会の立場としては、地域の意見が十分集約できるのか疑問であり、地域の意見が集約できるように検討して欲しいという御意見とありますが、いかがでしょうか。

(事務局)

検討いたします。

(E 委員)

市民意識調査について、第23回調査(2021年)の際は、6月にアンケート調査が実施され、公表が12月でした。ぜひ早めに結果を拝見させていただきたいと思います。

例えば、めざす姿として「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」とありますが、近所付き合いがあいさつ程度で良いかという設問で、つながりを求めている意識調査結果がありました。

(事務局)

現在集計中であり、9月頃にはまとめていきます。次回の審議会資料をお送りする頃には、

委員の皆さんにまとめ案をお示しできると思います。

■ 議題（２）第１回総合計画審議会の意見集約

■ 議題（３）「（仮称）ミライ構想」

○事務局 資料②、③に基づいて説明

（牧野会長）

御意見がありましたらお願いします。

（F 委員）

資料②地域共生について、第１回審議会の意見として出された、「健康でない方も含め、幸せを感じられることは非常に重要である」との意見に賛同します。

都市構造のイメージとして、将来にわたって安心して暮らし続けることができるように、生活の中でも高齢者の暮らしをどうするか、車を運転できなくなった時に、まちの中でつながりをつくる暮らしを楽しむことができるか、70歳代で免許返納した後にどのような施策が必要かを考えていくことが必要です。

益富校区はバスがありますが、高齢になるほど利用が難しい。豊田市の市域は広く、稲武や小原の地域の方はより困難になるのではないかと思います。

（会長）

車が運転できなくなった時に、社会参画や暮らしをどうするかという御指摘だったと思います。

（G 委員）

F 委員の言葉はありがたいと思います。医療介護に従事している者として、高齢者が今後増えていき、その中で独居高齢者が増えていく環境をカバーできる体制が重要だと思っています。独居だけではなく、老々介護の方、認知症で認知介護の方がウェルビーイングを感じられるかということが重要です。

（会長）

要介護、要支援の方が増えていく状況で、どのような都市構造が望ましいのかも考えてほしいという御発言だったと思います。

（H 委員）

私たちは高齢社会の中で生活をしていくわけですが、弱者と言われる一歩前、認知症や介護が必要になる前の期間を延ばそうと活動をしているが、その時期が終わると、ほとんどが弱者になります。

地域共生型の社会を作りましょうというテーマが出てくるが、どのような地域や単位においても、単発的に取り組んでいては解決できない。様々な方が情報を共有して、取り組んでいくことで初めて地域は守れると思います。高齢者クラブだけでは地域共生は進んでいかない。民生、区長会、社会福祉協議会もつながり合うことで、地域共生のスタートになります。このことについても検討課題にさせていただきたい。そうしないと私たちの取組が次につながらないと思います。

（会長）

これまでになかったような様々な課題、特に少子高齢化や人口減少が出てくる中で、対応

する組織の在り方が旧来型の縦割りであり、年齢別、役割別になっているのではないか。新しい生活を構想できるよう、それらを総合化していきながら、実効性を持って、地域の方にも理解していただき、社会実装（得られた知識等を、実社会で活用すること）していけないかという御意見だったと思います。

（I 委員）

持続可能性という言葉は、1980年代のドイツの森林管理からきています。「おもいやり」や「関係性」という言葉が色濃く感じられるようにすると、皆さんの腑に落ちるのではないかと考えます。元気な社会を表現する言葉が多いですが、関係性というような言葉を増やしていくと良いのではないかと思いました。

（会長）

総合計画の文言や書きぶりについては、グロース（量的拡大基調の成長・発展）の印象が感じられるので、新しい時代に向けて、概念の在り方を検討していくという御発言だったと思います。

（J 委員）

資料③－1まちづくりの基本的な考え方の「多様な主体が楽しむまちづくり」について、都市構造の中でどの辺りに関連性を持つのかを補足していただきたいです。

（事務局）

多様な主体との連携について、すべての取組において、個人や団体に支えられた上での取組の推進が必要と思っており、具体的な項目があるわけではなく、すべて関連していると思っています。

（J 委員）

多様な主体が楽しむまちづくりも都市構造に織り込んでいただきたいです。

（会長）

例えば、具体的なステークホルダーが考えられるというものがあれば例示いただきたい。また、委員の皆さんも、多様な主体として考えられるものがあれば御発言をお願いします。

（A 委員）

今の議論に合うかわかりませんが、元々は人口減少が大きな問題としてあり、第8次豊田市総合計画の策定の時にも、豊田市の大きな課題の一つとして、家族形成期の若者が家を買う際に豊田市から転出してしまい、転出超過ということがありました。それが解決されないまま、第9次豊田市総合計画が策定されようとしています。

第8次豊田市総合計画を継承していくという考え方は間違いではないですが、足りなかったところがあるのだらうと思います。豊田市は、近隣自治体と比べても遜色なく良い施策を行っていると思いますが、伝え方に工夫が必要なのではないかと思いました。

（会長）

家族形成期の若者の転出に対して、どのような施策を実施するのも含めて、わかりやすく伝えられないかという御指摘だったと思います。

（C 委員）

多様な主体が楽しむまちづくりのためには、行政のリードとともにサポートも必要だと思います。助成金や関係部署の紹介など、どこまで行政がサポートするかということも重要だと思います。

(会長)

行政がリードするまちづくりから多様な主体が楽しむまちづくりに変わる中でも、行政のサポートは必要であるという御意見だったと思います。

(I 委員)

都市構造について、都市計画の視点としてはこれで良いと思います。コンパクトという言葉に隠されているかもしれないですが、脱炭素やエネルギーの視点も入れるべきだと思っていますので、御検討いただきたいです。

(会長)

コンパクトの部分で脱炭素、ゼロカーボンも議論できないかという御意見だったと思います。北欧では、自転車を利用して15分圏内で生活が成り立つまちに変えようということで、中心市街地の自動車の速度を時速30キロメートルにし、公共施設の屋上も開放するなど、都市内で生活できるような、ゼロカーボンも狙ったまちづくりが進んでいます。要支援、要介護の方が、自ら自分の生き方を決定するということにもつながると思います。

(F 委員)

資料③-2は都市構造のイメージになっていますが、豊田市は中山間地域もあり、農業のまちでもあります。農林水産省は2050年までに農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現を目指すことを掲げています。温室効果ガスを減らすだけではなく、化石燃料を使わない施設への完全移行という考え方も含まれてよいと思います。

(会長)

農業、林業の在り方もゼロエミッション、ゼロカーボンに取り入れられないかという御発言だったと思います。

議題(2)と(3)については、また御意見があれば後ほどお願いします。

■ 議題(4) 「(仮称)ミライ実現戦略2030」の方向性

○事務局 資料④に基づいて説明

(会長)

「(仮称)ミライ構想」を受けて、「(仮称)ミライ実現戦略2030」の考え方として基本的にはSDGsの目標達成に向けた豊田市独自のローカルゴール、ローカルターゲットを設定するとなっています。基本的な考え方として一つ目はこども起点であること。もう一つは都市への愛着を持っていただくということ。そして、SDGsのウエディングケーキモデルを参考に、経済、都市基盤、環境、学び合い、地域共生が入っています。

これについて、御意見、御質問がありましたらお願いします。

(K 委員)

こどもを中心に、「こども起点」「こども視点」として、ウェルビーイングの向上となっているが、この書き方だと、こどもにアートや伝統文化活動をさせることでウェルビーイングを向上させると読めます。幸せに至るまでにいろんな過程があり、アートをしたらウェルビーイングが向上するものでもないのでもう少し柔らかい書き方にしてはと思いました。

(会長)

第4期教育振興基本計画でもウェルビーイングが大きな課題になっており、幸せを感じら

れるように本人が主体的に働きかけを行う獲得型のウェルビーイングと環境を整備しながらみんなが一緒になって幸せを感じられるような環境を作っていく協調型のウェルビーイングがあります。こどもを起点にするということと、ウェルビーイングがどういう関係にあるのか、もう少し議論しても良いのではないかと思います。

(L 委員)

まず、「(仮称)ミライ実現戦略2030」ですが、SDGsのローカルゴールを作ることは賛成です。SDGsでは環境、社会、経済の3つの切り口からしか選べなかったのが大きな問題だと思っています。愛着、誇り、こどもという視点がとても重要だと思っており、これらを加えることは賛成です。こどもの視点という時に気を付けないといけないのは、大人から見た視点ではなく、こどもと同じ視点で未来を考えることです。学生の意見を聞くという計画もあったが、策定の進め方としては良いと思います。

愛着、誇りの起点は文化で、地域独自の文化だと思っています。豊田市全体の文化ではなく、拠点の単位くらいが文化の単位になり得ると思っています。中核都市部とどのようにつながるかという議論でしたが、それだけではなく拠点ごとにSDGsのケーキ、つまり文化と暮らしの独自性を持っているので、地域自治として拠点ごとの独自性や独立性をどう作っていくかが重要になっていくと思います。言葉だけの計画ではなく、予算配分、地域ごとの自治システムをどう考えていくか、また、その意味でも長距離の移動を減らす、ゼロカーボンの視点も重要と思います。

(会長)

SDGsに経済・社会・環境しか入れていないことそのものが問題ではないか。また、そこに住む人々の感情も含めてまちが計画されていくべきではないか。まちづくりに対する具体的な措置についても議論を進めるべきという御意見だったと思います。

(B 委員)

ローカルゴールにこどもの視点が加わるということについて大いに賛成です。資料④-2の「こども」のキーワードの中で多世代のところを強調してほしいと思います。以前に比べるとこどもの数も減っていることもあって、違う世代と接することが減っているため、交流も少なく、地域に対する理解も少なく愛着も形成されていないと思います。

大人側も、大人側から見た昔のこどものイメージしか持てないのはこどもと大人の交流が足りていないからだと思います。キーワードを書く順番は別として、多世代を大きく書いてほしいくらいです。

ウェルビーイングについても、アート、スポーツ、伝統文化があれば、保証されるものではなく、こどもたちの選択肢を増やしてあげるといった視点で接する。その場合、選択肢があるかどうかはこどもが感じることで、選択肢を広げられるような地域社会や多世代交流を広げていくことがウェルビーイングになると思っています。

もう一つ、都市基盤に「コンパクト+ネットワーク」とあるが、こどもにつながらないと感じます。ローカルゴールとどうつながるのかイメージがわいていないので、教えていただきたいです。

(会長)

こども視点と言っても大人目線で考えるのではなく、こどもの目線で考えていくことが必要であるという意見。また、多世代を考えていくことが重要であり、さらにこどもたちのウ

エルビーイングにコンパクトネットワークがどう関わりを持つのかまだ具体的に書かれていないという御意見だったと思います。

(M 委員)

「多世代」を強調することは賛成です。横のつながりと縦のつながりがあり、横のつながりは様々な団体同士のつながり。縦のつながりはこども食堂がそうであるように、食事の提供にとどまらず、多世代交流の場になっています。そういった場で地域の高齢者とこどもがつながっていることが地域福祉において良い効果を生み出しているということがあります。

地域で顔の見える関係を作るためには多世代交流が重要です。福祉は、日頃からのつながりがあって初めて手を差し伸べることができます。介護が必要になってからではなく、必要になる前の段階から地域の中でつながりができていることが特に重要になると思います。そういった意味で、多世代でのつながりを強調した方がいいと思います。

(会長)

「多世代」は重要であるという意見でした。都市基盤と地域共生もつながっていて、都市基盤の中に多世代のつながりを作っていくということも組み込めるのではないかとご意見だったと思います。

(N 委員)

L 委員の意見に共感し、ローカルゴール及びローカルターゲットを追加することはとても良いことだと思いました。こどもの施策ということで、他の委員の発言にもあったと思いますが、こども自身の意見を聞く場を設け、施策を実行する段階においても、こどもが実際に参画する形で進めていけないかと思っています。

豊田市は外国人の方が多く暮らす国際的なまちというのも魅力とっており、外国人の方も共働で様々なことを進めていく、外国人の方が直接意見を表明する場を用意する。また、施策を実行する際も共働で行っていくことが重要だと思います。そういったことができると自己有用感を持ちながら地域の中で暮らしていけるのではないのでしょうか。そこから地域への愛着が生まれると考えています。

(会長)

こどもたちの目線に立つということに加えて、こどもたちの意見表明を受け止め、お互いが認め合う環境の中でこどもたち自身が参画する。また、外国人がたくさん住んでいる国際都市として、外国人の方々も自ら意見表明をしながら、社会の一員として関わりを持っていく必要があるという御意見だったと思います。

(O 委員)

「こどものミライに夢と希望を」というテーマは大事だと思います。ただ、ケーキの真ん中の軸にこどもを入れていますが、学び合いもこどものことだけだというバイアスがかかりすぎると全部こどもが主語になってしまうのではないかと思います。

学び合いという視点は非常に良いと思いました。高齢者の方や冒頭の会長の女性経営者の方の話の中で、自分たちが65歳以上になったときに職場以外に居場所があるのかという話がありましたが、高齢者に限らずどの世代でも学ぶということは喜びであり、社会が急速に変化する中で、学び直しは必要だと思います。高齢者であろうがこどもであろうが、学ぶことで社会に何かを生み出すことができると考えています。誰もが誰かのために役に立ち続ける社会、社会のために何かを生み続けるという事を誰もがやっているまちにしたいのであれ

ば、学び合いは生涯学習でよいのではないかと思いました。

こども軸があることでバイアスがかかるなら、多様な主体による地域共生のまちづくりの発想の制約になります。都市基盤とこども、経済とこどもがうまくかみ合わないようにこども視点フィットするところとそうでないところがあると思います。多様な主体というのであれば、高齢者の視点で何か足りていないかといった議論も必要だと思いました。

また、2万人の外国人が働くこのまちで、その視点が漏れてはいけないと思います。多様性はこどもだけでなく、高齢者、外国人、障がい者、LGBTの方もいる。こどもに特定した考え方はしない方がよいと思います。

(会長)

こどもが設定されるのは良いが、こどもを真ん中において議論をすると、生涯学習や弱者の視点が抜け落ちることはないだろうか。ローカルターゲットでこどもを置くときに、こどもの視点で、そこに関わる大人の視点も含めて議論する必要があるという御意見だったと思います。

(E委員)

地域ごとの独自性を考慮して都市機能を考えると、交通や医療など暮らしの機能性を重視した方が便利で良いとは思いますが、一方でまちなかの広場でイベントをすると賑わいやつながりが生まれて良いが、近隣の高齢者施設の方からは音が耳障りだという苦情もあります。暮らしを考えるとやまちをどう育てていくかを考えるときに、地域特性などを加味した都市づくりをしないと、「どうしてこのようなところに住んでしまったのか」ということになってお互い不幸なので、長期的なまちづくりについても可視化していけると良いと思います。

多様性と言っても多様の中に何が含まれるのかがわかりにくいと思います。先日、外国人が広場でイベントを開いた際に、イベントの表記の言語がわからないので恐怖感を与えたり苦情があったりしました。多様な方が豊田市に住んでいるという事がまだ認知されていないということを実感したので、可視化し共有することが大事だと思いました。

資料④-2の右側の最下部の「デジタル社会が進展する中、リアルな体験・感動の価値が高まる」という記述に共感する一方で、「デジタル社会が進展するからこそ、デジタルとリアルの融合によりリアルな体験・感動の価値が高まる」という表現にしていただければと思います。

(会長)

地域特性をどう組み込むかということ。また、異質なものの相互理解の可視化も計画の中では重要ではないかということ。そして、デジタルとリアルの融合ということを組み込む形で、リアルなものの価値を高めていくという意見だったと思います。

(P委員)

2050年を展望していたり、2030年の戦略として未来を見据えていたりするはずなのに、第8次と第9次を比べてみてもしっくりきていません。

予測可能性が低くなっている中で、何に対応すると上手くいくのかがまだわかりません。こどもが中心に据えられているのも予測可能性の低い未来に向けた戦略でもありますが、第8次でも基本施策の最初に出てくるのは「子ども・子育て」だと思います。そこにどのような差を出していくと乗り越えられるのだろうかと思っています。予測可能性が低い中で多様性を担保することが生物の生き残りの戦略であるが、そもそも総合計画の中でどこにタ

ーゲットを絞るのかと議論していること自体が、多様性を狭めているのではないかと思います。また、この審議会の進め方を考えることが予測可能性を高めるポイントになるのではないかと考えていました。

デジタルが進むほど、リアルな体験や感動の価値が高まるべきだと思っています。大学でもオンライン授業になったため心が病んでしまう人がたくさんいました。リアルを無視した結果、大学がつまらない場所になったということを目の当たりにしています。デジタルな社会が進んでいく中でリアルな体験をどう提供して、どうその価値を守るのかということと、その戦略をしっかりと考えていくべきだと思っています。科学技術は正しい進み方をしているのだろうか毎日思い悩んでいます。科学技術が進めば進むほど、人と人の接点が減っていくと思います。ZOOM だと雑談の場は減っていくことはありますが、それは科学技術が原因ではなく、科学技術の使い方に原因があり、人と人の接点が増えるように、或いは、リアルな体験や感動の価値が高まるように科学技術を使う方法を議論できればと思います。

(会長)

本来、総合計画をどう作るのかということも議論しないといけないと思います。未来が予測困難な時代に入らな中で、10年、20年後のことはよくわからないというのが本当のところだと思います。そういった意味では、開放系の計画の作り方というものもあるが、そのあたりも議論ができると良いと思います。

大学教員としてデジタルの話は共感します。どう使うのかということとどう受け止めるかといったことを考えないといけないと思っています。受け止める側の人をどう育てるかが問われているので、デジタル社会の進展と体験・感動という言葉が使われているのは意味があると思っています。

(Q 委員)

豊田市らしさを引き出したいということで、市民参画を検討されていると思いますが豊田市の良さは豊田市を離れた方や海外の方が、豊田市を離れてみてわかるかもしれないので、豊田市を離れた方の意見を聞いてみて、何かキーワード、イベント、事象、場所が出てくると、豊田市らしさのすり合わせができるのではないかと思います。

(会長)

外部の目を入れたらどうか、そういうところから豊田市の良さを拾い上げてはどうかという御提案だったと思います。

(F 委員)

子どもを中心にしたウェディングケーキモデルを見て、豊かな家庭の子どもをイメージしていると感じました。次世代を担う子どもの育成は重要ですが、子どもの貧困があり、豊田市には子ども食堂の数は2022年7月時点で31か所、今現在はもっと多くあります。

D 委員が言われた通り、42万人の豊田市民が豊田市に子ども食堂が必要であるという事実を知っているかという疑問があります。一方で瀬戸市では17時に子ども食堂を開催すると、昼食を食べずにおなかペコペコでくる子や日曜日に一人で来て食材を持ち帰る子もいるなかで、大手スーパーや米国に本社を置く会員制倉庫型卸売り・小売りチェーン店、JA等が食材を提供しています。

そういった意味では、事業者との連携もウェディングケーキモデルの中に描けるのではないかと思います。運営されるNPO法人がどこまでできるかという課題の中で、シングル世

帯に貧困家庭が多く、こどもの孤食、在日外国人の言語のサポートなど、こどもをサポートしながら大人までサポートしなければならない負のスパイラルに落ち込んでいる話を聞きます。シングル世帯のサポートやこども食堂の運営支援など、共助の仕組みの構築をもう少し書き足してもらえるとありがたいと思います。

(会長)

豊かな家庭のこどもだけでなく、貧困家庭、ヤングケアラー、兄弟でケアをしあう家庭など、支え合う環境をどう作るか、特に事業者とNPO法人など、こどもたちをどう支えていくかという観点も必要という御意見だったと思います。

(I委員)

SDGs ウエディングケーキモデルをよく見るが、豊田市版として名称をそのまま使って良いものかというのが気になりました。伝統文化も触れており、豊田市版鏡餅モデルなど、名称を考えてみてはどうかと思いました。

(会長)

鏡餅かもしれないしバウムクーヘンかもしれないと思いました。

議題4については、ここまでとさせていただき他にあれば後日お願いしたいと思います。

(市長)

今回、SDGsのローカルゴール・ローカルターゲットを無理に入れているところがありますが、思いのほか幅広い議論になりましたので非常にありがたく思っています。こどもに着目したローカルゴールを設定したのは、2か月前の審議会でもP委員が生成AIを利用されたメッセージを頂きましたが、この2か月で生成AIの状況は非常に変わってきていると思います。今後の生成AIの動向は想像がつかないです。しかし、こどもたちはそのような世の中で生きていくことになりますので、こどもに着目したことを考えていかなければいけないのではないか、これからのまちづくりは、こどもたちにとってどのような視点を持たないといけないのか、その視点を持つために、あえて18番目のゴールを設定しようと思いました。さらに19番目のゴールは、私の中ではリンクしています。これからこどもたちが生成AIに振り回されるような社会の中で、こどもたち自身が主体的に自分らしく暮らし続けることができる共通項は何かと考えると、結局のところ文化、芸術、スポーツといった自分では感じられない、自分では行動できないものが文化、芸術、スポーツに集約されるのではないか。そのところをこれからの社会のこどもたちにとって、できるだけいろいろなチャンスが生み出されるような取組を積極的に取り組んでいく必要があるのではないかと思います。様々な議論はあると思いますが、そのような意味であえてSDGsの18番目、19番目のゴールを設定しました。私自身は、あくまでこどもの未来のためだと思っています。

今回の資料を見ていて改めて思うのは、19番目のゴールで、設定理由が「まちに対する人の愛着はすべてのまちづくりの原動力」とありますが、確かに総合計画のためです。このような表現になるのかもしれませんが、その前提で一人一人のこどもたちにとってどうか。決して豊田市のためではなく、一人一人のこどもたちの自分らしく暮らし続けることができる、そのためにということをお忘れしないようにしないとけないと思います。まちづくりのためにこどもがいるというのでは変な話になるので、ここはしっかり押さえてほしいと思います。

いろいろな御意見をいただきありがとうございました。今まで総合計画を積み上げて取り組んできましたが、そろそろ構造的に変えなければいけないという時期にきているということが二点あります。

一点目は公助に対してどのように向き合うのかという話です。免許返納の話があり「免許返納すると大変だから公助で」という方法を、これからも続けるのかということです。これからの時代は、共助をもう一度取り戻すという時代に転換しないといけないのではないかと。地域共生社会の全国サミットを開催しますが、地域共生社会の一つのテーマはおそらくそこだと思っています。公助は大切ですが、共助をもう一度私たちの地域社会に取り戻す、その価値観の転換点になるということです。

二点目は、先ほどあった拠点の話で、2000年くらいから、中央集権型から分権へという話が出てくるのですが、実際には中央集権に頼るといふ地方の体質は変わらない。分権型、分散型の住民自治、地方自治を、もう一度取り組む時期に戻ってきている。具体的には、支所の権限、財源の持ち方を考え直し、住民の決定権を強化し、住民の自治の在り方をもう一度見直すことだと思っています。

以上の二つは、根本的にまちの新しい在り方を変えていくという視点での項目として、次の時代に向けての模索を始める時期かと思っています。

(会長)

今回の総合計画全体の在り方と、豊田市の都市の構造の在り方についての議論になるかと思えます。

#### ■ 議題（5）市民参画の取組（情報提供）

○事務局 資料⑤に基づいて説明

(会長)

市民参画の取組でどう作るか、対話を通じて計画に取り入れていくという御説明だったと思います。

委員の皆さんから御質問、御意見ありますでしょうか。

(I 委員)

趣旨は間違っていないと思うが、意見聴取という言葉が引っ掛かりました。意見にならない言葉もあると思うと、対話の方が良いのではないかと思いました。

(会長)

言葉遣い、書きぶりのことで、対話としてはどうかという御意見だったと思います。

(J 委員)

市民の声を入れていただくということで、「（仮称）ミライ実現戦略2030」を具体化していくに当たり、私も豊田市の一市民として、市民の困りごとや課題感を取り上げていただき、市が感じている課題感とすり合わせた上で方向性が作られると市民も理解しやすくなると思います。

(事務局)

広く自由に意見を言える場を考えており、（仮称）とよたシティボイスの中で広く意見を聞いていきたいと考えています。また、どのように周知をしていくかも模索しながら、御意

見を聞いていきたいと思っています。

(会長)

今回の「(仮称)ミライ構想」と「(仮称)ミライ実現戦略2030」について、人生100年時代を迎えるに当たって、こどもたちを基本に考えるという方向性は支持したいと思います。私たちが生きるということ、世代を超えてつないでいくこと、こどもに期待をかけていくこと、すべてこどもに関わっているので、未来志向型で総合計画を作っていくことは、非常に重要だと思っています。

こどもを基本にしながら、私たち大人に何ができるのか。未来図を描いて実現していく達成型の計画を作ることでもできるが、VUCA(先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態)の時代に入り、予測不可能なことが起こる中では、計画の在り方についても、できるだけ開放型にし、都度人々が創意工夫をしながら、それぞれの人が自分の社会や人生を作っていくという考え方ができるかも含めて今後議論ができればと思っています。

様々な意見がありましたが、核心としては、つながりの中で自尊心や尊厳を持って生きることができる社会をどうつくるかだと思います。その意味では自己決定がどうできるかということも問われてくると思います。

今後、構想の在り方についても、一人一人がこどもも含めて、尊厳を持って生きられる社会をどう作っていくのか。言い方を変えると、ある種の価値選択をしなければいけないかもしれませんが、目的や方向性を決めてしまうわけではないが、譲れないものがあるという形で総合計画を考えていくことができるとよいと思っています。

市民の方の意見を聞きながら、皆さんで御議論いただきたいと考えています。

それでは、議事を事務局にお返しします。

○事務局

■ 企画政策部長あいさつ

■ 事務局連絡

○事務局 次回審議会日程

: 令和5年11月20日開催

(終了 午後4時00分)